

氏 名：佐藤 直子

学位の種類：博士（看護学）

学位記番号：甲第187号

学位授与年月日：2020年3月10日

学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当

論文審査委員：主査 奥 裕美（聖路加国際大学准教授）

副査 山田 雅子（聖路加国際大学教授）

副査 麻原 きよみ（聖路加国際大学教授）

副査 清崎 由美子（全国訪問看護事業協会事務局長）

論文題目：A区の訪問看護師のプリセプター育成のための実装研究

博士論文審査結果

本研究は、1年目訪問看護師の教育支援体制充実にに向けた指導者（プリセプター）研修プログラムを開発するための実装研究である。研究者が訪問看護師として勤務するA区において、適切性・受容性・実行可能性が高い研修プログラムを当事者および専門家との協働により開発することを目的として実施した。文献検討および予備研究を基に作成した研修要綱および教材を、専門家7名との意見交換により修正し、研究者が主催する研修会において使用した。研修会には、A区の訪問看護事業所で指導者役割を担う、もしくは担う予定であるスタッフ看護師および管理者の合計11名が参加した。参加者には実施直後に調査票への回答を依頼し、さらに1か月後にインタビューを行い、研修の適切性・受容性・実行可能性を確認した。

その結果、研修要綱（Ver.4）・教材（Ver.3）が出来あがり、適切性・受容性・実行可能性は目標値を上回る結果が得られた。さらにこれらの結果から、研修プログラムには職場を離れる時間が少ない利便性の高さが強く求められること、また、指導者は自らの教育者役割に関して継続的に支援が受けられる体制を望んでいることが明らかになったことから、今後は研究者が主体となり、A区に既に存在する訪問看護事業所の共同体を活用した教育支援体制づくりを計画するに至った。

審査では、研修要綱・授業案・教材は、修正理由と内容をその経緯がわかるように詳細に記載すること、統合して提示されていた研修参加者から得られたデータについて、全て管理者・スタッフという役割に分けて分析し直し提示すること、研修プログラムの継続計画案をより具体的に作成し、特にスタッフ看護師の共同体の構築についての記載も含めること、本研究の副次的な効果についても述べること、これらの修正により、結果に大幅な変更が生じるため、タイトルを修正すること、最後に本文・資料全ての図表

や文章について引用文献、誤字・誤表記、曖昧な表現等を修正し、論文の体裁を整えることなどが指摘された。それぞれの修正は適切に行われ、全審査委員が確認した。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。